PTFEG用接続チューブ

【禁忌・禁止】
1. 異なる患者への再使用禁止

【形状・構造及び原理等】
1. 構造
   有効長60cm

2. 種類
   ① チューブ外径（mm）：6.1
   ② 有効長（cm）：60
   MD-46180

※本品は無菌梱包である。

*3. 材質
   本品はポリ塩化ビニル（可塑剤：トリメチル酸トリス（2ーエチルヘキシル））を用いている。

4. 作用・動作原理
   本品は、胃又は腸に挿入した経腸栄養カテーテルと連続して、
   経腸栄養食又は治療食を入浴の栄養から、経腸栄養食又は治療食を経腸栄養カテーテルに導く。

【使用目的又は効果】
   本品は、胃又は腸に挿入した経腸栄養カテーテルと連続して
   経腸栄養食等を投与するために用いる。

【使用方法等】
※本品は、PTFEGキット（医療機器承認番号：22208ZX008211000）の留置カテーテル／ボタンタイプ用に
   設計されているので、他の目的で使用しないこと。
1. 本品の使用に際して、必要に応じ以下のものを準備すること。
   ① 本品
   ② 染料（アルカロインド）、染料セット
   ③ ケーテルチュップタイプのシリンジ（30mL）
   ④ 経腸栄養栄

2. 患者に留置されている留置カテーテル／ボタンタイプ（以下「留置カテーテル」という）のボタン部のキャップを外す。
3. 留置カテーテルのボタン部に本品のコネクターを差し込み
   （図1）、接続部から液流れしないよう回転を止めるまで
   右周りにネクタを120°回転させて（図2）、留置カテーテルと本品を接続する。

5. 染料ボトル／染料セット・本品を繋ぎ、チューブ内腔に経腸
   栄養食を満たし、クランプを閉じて流路を保護しておく。
6. 留置されている留置カテーテルのキャップを外し後、
   本品のコネクターを介してC5の栄養セットを接続し、所定の
   経腸栄養栄を医師の処方に従い投与する。
   （ケーテルチュップタイプのシリンジで経腸栄養栄を投与する
   際は、ケーテルチュップタイプのシリンジを本品に繋ぎ、
   チューブ内腔に経腸栄養栄を満たした後、本品のコネクター
   を留置カテーテルのボタン部に接続して投与を行う。）
7. 経腸栄養栄などの残渣の排出を行う留置カテーテルおよび本
   品の内腔の詰まりを防止するために、経腸栄養栄を投与後、ぬ
   るま湯の下、またはフラッシュにて留置カテーテルと本品
   のチューブ内を洗浄する。
8. 本品のコネクターを左周りに回転を止めまで回転させ、留
   置カテーテルから本品を外し、キャップを閉める。

【使用方法等に限る使用上の注意】
1. アルコールまたはアルコール含有製剤もしくはアセトンなど
   の有機溶剤を使用しないこと。使用中はニトリルが破壊す
   る可能性がある。
2. 本品の使用にあたっては、無理に引っぱったり折ったりせず、
   注意深く慎重に使用すること。本品の破損、破断の可能性が
   ある。
3. 本品は熱湯消毒しないこと。熱変形により、溢液が発生す
   る可能性がある。
4. 経腸栄養栄の入り口が狭い、胃内残余、患者の整便などに注意
   し、異常が見られた場合には、適切な処置を行うこと。
5. 経腸栄養栄を投与する前に必ず上半身を30°から90°に起こ
   すこと。経腸栄養栄が食道へ逆流し、誤嚥性肺炎を引き起こす
   危険性がある。
6. 経腸栄養栄などの投与、またはぬるま湯などによるフラッシ
   ュ操作の際、操作中に抵抗を感じられた場合は操作を中止す
   ること。本品または留置カテーテル内腔が詰まっている可能
   性があり、内腔の開通を解除せずに操作を継続した場合、内
   腔が過熱に至り、本品または留置カテーテルなどの部材が
   破損、または断熱の可能性、各接続部からの液漏れが発生す
   る可能性がある。
7. 留置カテーテルに本品を接続し、留置カテーテルの詰まりを
   解消するための操作を行う際は、次のことに注意すること。
   なお、あらかじめ詰まりまたは破裂などのおそれがあると判断
   される留置カテーテル（新生児・乳児・小児に使用する、留
   置カテーテルの径が小さく肉厚の留置カテーテルなど）が
   詰まった場合は、当該操作を行わず、留置カテーテルを拔
   去すること。
   [1] 注入器は容量が小さいサイズ（30mL以上を推奨する）
   を使用すること。容量が30mLよろにくさ注射器が注入
   压が大きくなり、本品の破損または破断、留置カテーテル
   と本品の接続がずれる可能性が高くなる。
   [2] ステイナップなどを使うこと。
   [3] 当該操作を行なっても詰まりが解消されない場合は、留置
   カテーテルを拔去すること。
8. 本品と留置カテーテルとの接続部、または本品と栄養セット
   の接続部は定期的に清掃し、清潔に保つこと。接続部の汚
   れ、油分などの付着により、栄養セットのはずれが生じ可
   能性がある。
9. ぬるま湯などを注入する際に、ルアー・タイプのものを無理に
   使用すると、液漏れが発生する可能性がある。
10.栄養セットはケーテルチュップタイプのものを使用すること。
    液漏れが発生する可能性がある。
11.本品と留置カテーテルの着脱時に本品のコネクターを120度
    以上無理に回転させたり、破損するおそれがありきしたりし
    ないこと。本品のコネクター、留置カテーテルのボタン部が
    破損する可能性がある。
12. 本品のコネクターは繰り返し使用により破損すると、コネクターと留置カテーテルの接続部から経腸栄養剤が漏れる可能性がある。コネクターが破損した場合は新しいものに交換すること。

13. 本品のクランプを使用しないときは、常に開けた状態にしておくこと。チューブの変形（閉塞）が生じる可能性がある。

【使用上の注意】
1. 不具合・有害事象
　本品の使用にともない、以下のような不具合・有害事象が生じる可能性がある。

【その他の不具合】
・経腸栄養剤の漏れ（本品のコネクターと留置カテーテルの接続部、本品のファネルとカテーテルチップタイプのシリコン、もしくは栄養セットの接続部）

【保管方法及び有効期間等】
1. 保管条件
　本品は直射日光や水濡れを避け、涼しい場所で保管すること。

2. 保存・点検に係る事項
1. 本品は石鹸水で洗浄、さらにミルトンなどの水酸塩系系の消毒剤で消毒し、必要に応じて水ですすぐこと。本品内腔に経腸栄養剤が詰まる可能性がある。

【製造販売者及び製造業者の氏名又は名称等】
【製造販売元】
秋田住友ペーク株式会社

【お問い合わせ先電話番号】
住友ペークライツ株式会社
・東日本営業部：03-5462-4824
・西日本営業部：06-6429-7932
・中日本営業部：052-726-8381